厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担）研究報告書

「患者体験調査」の地域性と全体評価の決定要因に関する研究

研究分担者　樋田　勉　獨協大学　経済学部　教授

研究要旨
平成 30 年「患者体験調査」における，がん治療に対する全体評価等の主要項目の回答分布における地域差を検討した。また，全体評価の決定要因を明らかにした。

A．研究目的

本研究の目的は，「患者体験調査」データを用いて，(1)がん治療に対する全体評価等の主要項目の回答分布に，地域差や施設差があるのかを確認することと，(2)全体評価の決定要因を明らかにすることである。

B．研究方法

「患者体験調査」の調査設計（層別 2 段抽出）設計を考慮した分析を実施した。(1) では，全体評価等の主要な項目についてクロス集計により地域差を確認したうえで，ロジスティック回帰分析により，患者の基本的な属性をコントロールしたうえで地域差の確認をした。(2)では，全体評価を被説明変数（肯定的意見とそれ以外の 2 値変数として分析），地域ダミーを含む他の主要な調査項目を説明変数として，ロジスティック回帰分析を行った。この際，多重代入法を用いて項目無回答の処理を行った。
（倫理面への配慮）本研究は該当しない。

C．研究結果

(1)では，くの主要項目では地域差は小さいが，全体評価，希望の尊重，相談しやすいスタッフの有無など，いくつかの項目では九州地域で評価がやや高い傾向だった。(2)では，治療開始時のがんのステージが高い場合，診断までの時間がかかった場合，費用のために治療を断念した場合は，全体評価に対する肯定的意見が減り，納得のいく治療，医療者との対話，希望の尊重などについて良い評価をしている患者は，全体評価に対する肯定的意見が増える傾向だった。

D．考察

(1)では，全体評価をはじめとして，患者の属性をコントロールする場合としない場合とで，結果が大きく変化する変数はほとんどなかった。しかし，いくつかの変数では，前者と後者とで係数が変化するものもあったため，地域間の比較では，患者の属性分布をコントロールすることが重要と考えられる。(2)では，治療前や治療中の医療に関する評価，患者の現在の状況などが全体評価に関連する。欠測のないレコードのみを使った分析と，多重代入法を用いた分析の結果に大きな差は見られず，項目無回答の発生は概ねランダムと考えられる。

E．結論

このような分析結果は，患者の治療に関する満足度を高めるために重要な示唆が含まれており，今後も継続的に調査を実施することや，さらに分析を深めることが必要である。

G．研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H．知的財産権の出願・登録状況

なし
1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3.その他
なし